

3～5月のプラネタリウム

神秘の太陽 金環日食

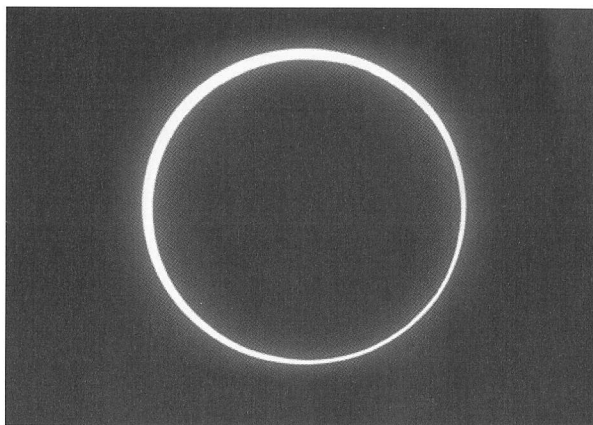
今年5月21日、ここ大阪を含む関東から南九州にかけての広い地域で、金環日食を見ることができます。金環日食とは太陽が欠けていき、まるで指輪のリングのような形になってしまう現象です。

金環日食は大変珍しい現象です。前回大阪で金環日食が見られたのは1730年で、

今から282年前のことです。これは江戸時代、ちょうど徳川吉宗が将軍であったころの話です。そして次回、大阪市の中心部で日食が見られるのは2312年、何と今から300年後になります。今年、大阪で金環日食を見ることができるのは、まさに千載一遇のチャンスと言えるでしょう。

5月21日は、大阪では朝6:17に太陽が欠け始めます。その後、だんだんと大きく欠けていき、7時30分ごろ、リングのような金環食になります。金環の状態になるのは、7時30分前後の2分半だけです。この時は太陽がほとんど隠されてしまうため、あたりはうす暗くなってしまいます。その後は元の姿に戻り始め、8時54分に日食が終わります。

今回のプラネタリウムは、この金環日食についての特集です。日食は、太陽・月・地球が関係する現象です。どうして日食が起こるのか、その仕組みを明らかにします。また、どのようにして日食を見たらよいか、その観察方法を紹介します。太陽の光はとても強いので、直接見てはいけません。たとえ短時間でも、目を痛めることになります。そこで、簡単で安全な日食の観察方法を紹介します。さらに、プラネタリウムで日食当日の空の様子を再現してみます。再現した空で日食の進み具合を見ながら、当日の見どころを紹介します。どのように日食が見えるのかプラネタリウムであらかじめ体験しておき、十分準備をして金環日食当日を迎えましょう。



金環日食

企画・制作：江越 航(科学館学芸員)